

パリトキシン様物質による食中毒について

高知市保健所 高橋 朗 安藤 徹 森本和憲
秋山麻里 石井由紀 吉田雅憲

はじめに

平成 12 年 11 月、高知県内で魚肉（魚種不明）を共通喫食とするグループにパリトキシン様物質による食中毒が発生した。パリトキシン様物質による食中毒の発生は少ないが、毒性は強く横紋筋融解による筋肉痛を主症状とし過去において死亡例もあることから、食品衛生上重要な問題である。パリトキシン様物質による食中毒はアオブダイを原因とした報告はあるが他の魚種での発生はなく、魚の毒化機構については解明されていない点も多い。また同じ魚種でも棲息する海域により毒化したりしなかったりするため今後の調査・研究が必要である。細菌性食中毒に比べ自然毒食中毒は一般にあまり知られておらず毒化した魚を調理して喫食することも考えられることからこれらに関する情報の収集及び分析をするとともに、市民に対し特徴的症状等の情報提供を行い自然毒に関する注意を喚起していくことが重要である。

1 概要

平成 12 年 10 月 30 日(月)～11 月 4 日(金)に高知市及び土佐市内で魚種不明の魚肉を使った鍋料理を喫食した 9 グループ（高知市内 8 / 土佐市 1）33 名のうち 11 名（男性 7 名、女性 4 名）が筋肉痛を主症状とするパリトキシン様食中毒症状を訴え、2 医療機関に 7 名が入院した。

2 探知

平成 12 年 11 月 6 日(月)午前 9 時、高知赤十字病院から鍋を喫食したあとに筋肉痛を呈した 4 名が入院している旨の連絡があった。

3 喫食状況及び発症様式

喫食者数は 9 グループ 33 人であり病院を 16 人が受診しうち 10 人が有症と診断された。未受診者の聞き取りを行い筋肉痛がある場合を症例と定義し、肩こりを訴えた 1 名を加えて有症者数を 11 名（男性 7 人、女性 4 人：24～57 歳）とした。そのうち入院した者は 7 人であり、発症率は 33%であった。

今回、食中毒の原因と考えられる魚を同じ人が 1～3 回喫食しており、中毒症状と思われる肩こりや筋肉痛を感じながらもさらに喫食しているケースがあった。そのため潜伏時間は、通常の食中毒のように、喫食時刻から発症時刻までの時間とすることはできない症例があった。しかし、あえて潜伏時間を示すために、発症日時にもっとも近い喫食日時から発症日時までを潜伏時間としてみると、潜伏時間 3～4 3 時間 平均 1 9 時間 3 3 分 となった。

有症者らはグループごとに、内臓、アラ、白身をそれぞれ鍋にして喫食しており、魚肉の部位による発症の明確な差は認められなかった。

喫食者数	33 人	受診者数	16 名				
有症者数	11 名（うち入院 7 名）	男性	7 名	女性	4 名	年齢	24 歳～57 歳
発症率	33%						
潜伏時間	3～4 3 時間	平均	1 9 時間 3 3 分				

4 症状

有症者の全員が、首・肩・腕・腰・足などの筋肉の痛みを訴えた。その他に、呼吸がしにくい、頭痛、目の充血、目の異常（二重に見えた）、熱感、嘔気・腹痛、尿の色調変化（レンガ色）などの訴えがあった。

呼吸がしにくい	2
筋肉痛（肩こり、腰痛、腕・大腿部の痛み）	全員
頭痛	1
目の充血	1
目の異常（二重に見えた）	1
熱感	1
嘔気・腹痛	1
尿の色調変化（レンガ色）	2

また、病院から情報提供のあった5名の入院患者の検査値は、CPK,GOT,GPTなどが上昇しており、特にCPKは高値を示したものがあった。

5 魚肉の入手経路

現在までの調査で下記のことわかっている。

魚（体長1.3m、体重32kg）は宿毛湾において漁獲されたもので、A氏が漁師から購入し、弘化台で解体及び袋詰め後、9グループに販売または譲渡した。それぞれのグループ構成は家族や友人であった。

6 魚毒検査と魚種鑑定（魚毒検査及び魚種鑑定は外部検査機関に依頼した）

急性魚毒（フグ毒、麻痺性貝毒）及びシガテラ毒を検出せず、パリトキシン様物質が確認された。また残っていた魚肉から電気泳動パターンをクエ、アカマダラハタと比較したが、いずれも一致しなかった。さらに鱗による魚種鑑定についても魚種の断定には至らなかった。

7 まとめ

今回の食中毒の原因物質はパリトキシン様物質であると判明したものの、魚種の特定には至らなかった。調査の結果からアオブダイ以外の大型の魚が毒化しパリトキシン様物質を保持していたものと思われる。パリトキシン様物質をはじめ自然毒による食中毒は一般にはあまり知られておらず、今回のケースにおいては症状がありながらも魚肉を食べ続け症状を悪化させてしまう例もあった。こうしたことから食品衛生行政において自然毒食中毒予防には情報提供が重要であり、様々な機会をとらえて情報提供を行う必要があると考える。当保健所では現在ホームページなどを使い多発時期などを考慮した効果的な情報提供のあり方を検討している。